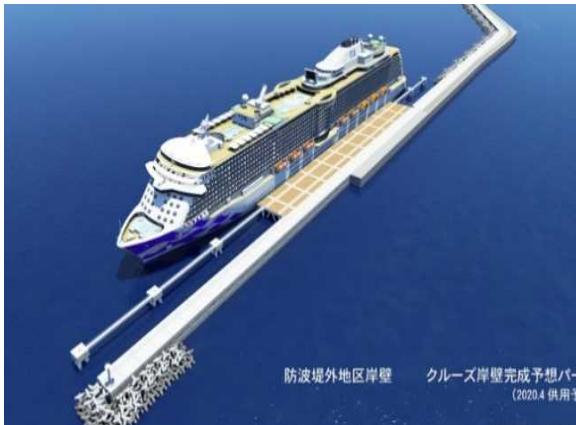




内閣府

2017

沖縄総合事務局十大ニュース



平成 29 年 12 月

内閣府 沖縄総合事務局

★産地とアジアのかけ橋となる地域商社連携

成長するアジア市場では、世界中の国々や日本の各地域から特産品の輸出を目指して参入しており、競争の激化が進んでいます。事業規模が小さい管内の地域商社は現状維持には危機感を覚える一方で、自社単独での海外展開には人的にも資源的にも限界を感じ、これを打破するため、3月7日、県内の地域商社7社（※）による連携協定「食品輸出等に関する戦略的連携協定（FTP:Food Trade Strategic Partnership Agreement）」の締結を行いました。



管内において競合相手となる地域商社7社は、この連携協定締結を契機に沖縄県内外の農水畜産物・加工食品などの輸出拡大を目指し、海外事業における連携及び相互補完によりアジア市場における競争力強化に取り組みます。

※県内地域商社7社

- ・株式会社 新垣通商
- ・合同会社 アンドワン
- ・株式会社 BRIDGES
- ・株式会社 沖縄県物産公社
- ・株式会社 沖縄物産企業連合
- ・株式会社 萌す
- ・株式会社 JCC



FTP締結式（平成29年3月7日）

★沖縄におけるバス自動運転実証実験

今年3月の南城市に続き、6月には石垣市において公道での自動運転距離が日本最長となる実証実験を行いました。また、その実験では全国初の試みとして一般の方に乗車してもらいました。

12月には比較的交通量の多い北中城村～宜野湾市間においても実証実験を行います。本実験では準天頂衛星や高精度三次元地図を利用した走行制御性能の検証や加減速制御の活用による車内転倒事故の減少、乗り心地改善の検証等を行います。



石垣市におけるバス自動運転実証実験

★さとうきび、17年ぶりの大豊作

沖縄の基幹作物であるさとうきびの平成28/29年期の生産量が、17年ぶりに90万トンを超え、93.7万トンの大豊作となりました。

これまでの、農家や関係機関が一体となった増産に向けた取組や、国、県などによる支援に加え、台風や病害虫による被害が限定的であったことも奏功しました。

今後も、関係者が一体となって、生産量の維持・拡大や農家所得の向上に向けて、取り組むこととしています。



北大東島のさとうきび畑



ゆがふ製糖の原料集積ヤード

★財政教育プログラム in 伊原間中学校

7月に石垣市立伊原間中学校において「財政教育プログラム」を開催しました。当プログラムは小中高生へのニュートラルな主権者教育の一環として、財政を通じて自分たちの国の将来について判断できる知識を育むために全国で実施しており、県内では今回が2校目となります。

学校授業において、最初に当局職員が身近な公共サービスを紹介し、それを支えるための会費として税金が集められていること、そして、財政を含めた社会の課題が将来の自分に大きく関わっていくことなどを説明しました。

その後のグループワークでは、生徒達自身で予算のシミュレーションを行い、財政について活発な議論が行われました。学校の先生からは「今回のプログラムは回答を導き出すものではなく、それぞれの考え方を出し合い、意見をまとめていくという参加型の授業で、生徒にはいい経験になった」とのご意見がありました。



当局職員による説明



グループワークの様子

★クルーズ船寄港数過去最多「宮古島市で初の乗合タクシー実証事業を実施」

実証事業を実施

宮古島におけるクルーズ船寄港回数は、平成28年度89回 平成29年度は138回と過去最多の見込みです。

クルーズ船観光客に対する二次交通の供給により宮古空港を利用する地域住民や観光客・ビジネスマンなどの移動手段確保が課題となっていまし



宮古島市における乗合タクシー実証事業

た。このような課題を踏まえ、当局では沖縄県ハイヤー・タクシー協会及び同協会宮古支部の協力の下、空港と中心市街地を結ぶ乗合タクシー「宮古島くるりんバス」の実証運行を実施しました。

「宮古島くるりんバス」の試験導入で空港利用者の移動手段の確保や利便性向上が期待されます。



宮古島くるりんバスのチラシ

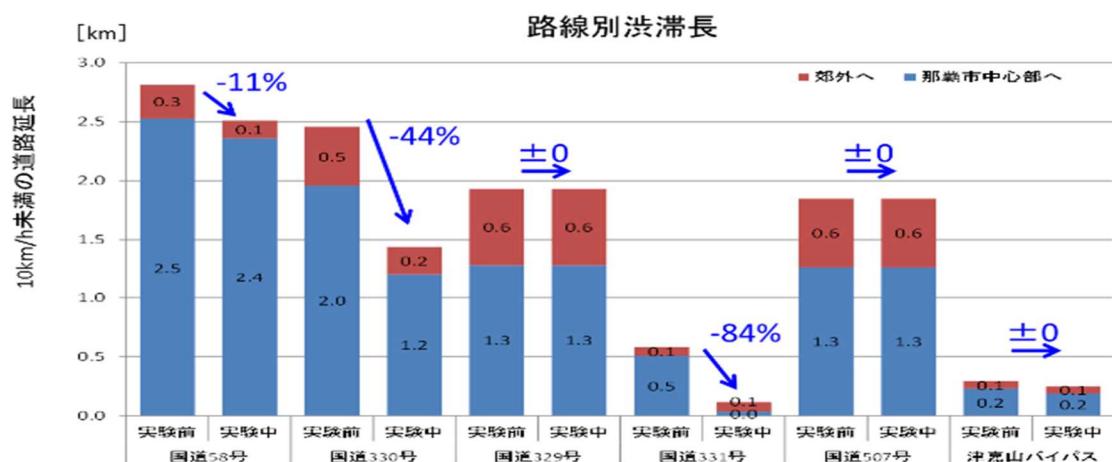
★公共交通への転換「わった～バス大実験」大きな効果

9月16日（土）～22日（金）に県民意識をマイカーから公共交通へ変えるべく「わった～バス大実験」と銘打ち、企業など約160社、約1900人の協力の下、バス転換、時差出勤などの実証実験を行いました。

主要な国道において、朝7時台の交通量や渋滞長が減少し、6割が継続等の意向を示すなど大きな効果が見られました。



「わった～バス大実験」開始式



対象期間 実験前: 2017.9.7～9.15の平日 期間中: 2017.9.16～9.22の平日
 集計範囲 那覇市と隣接市町村(那覇市、浦添市、豊見城市、南風原町、西原町)
 ※3サンプル以上のリンクを集計

★平良港が飛躍的に発展！全国1番乗りの「平良港国際クルーズ拠点整備事業」起工式開催

9月30日、官民連携による国際クルーズ拠点として全国1番乗りとなる「平良港国際クルーズ拠点整備事業」の起工式が開催されました。

本事業は、クルーズ専用岸壁、岸壁前面の泊地、背後の臨港道路を国が、旅客ターミナルビルをクルーズ船社である嘉年华・コホーレーション&PLCが、それぞれ建設するものです。事業完了後には、最大14万トン級のクルーズ船が係留できることになり、今後ますます増大するクルーズ需要に対応するなど、観光客の一層の増加が期待されます。

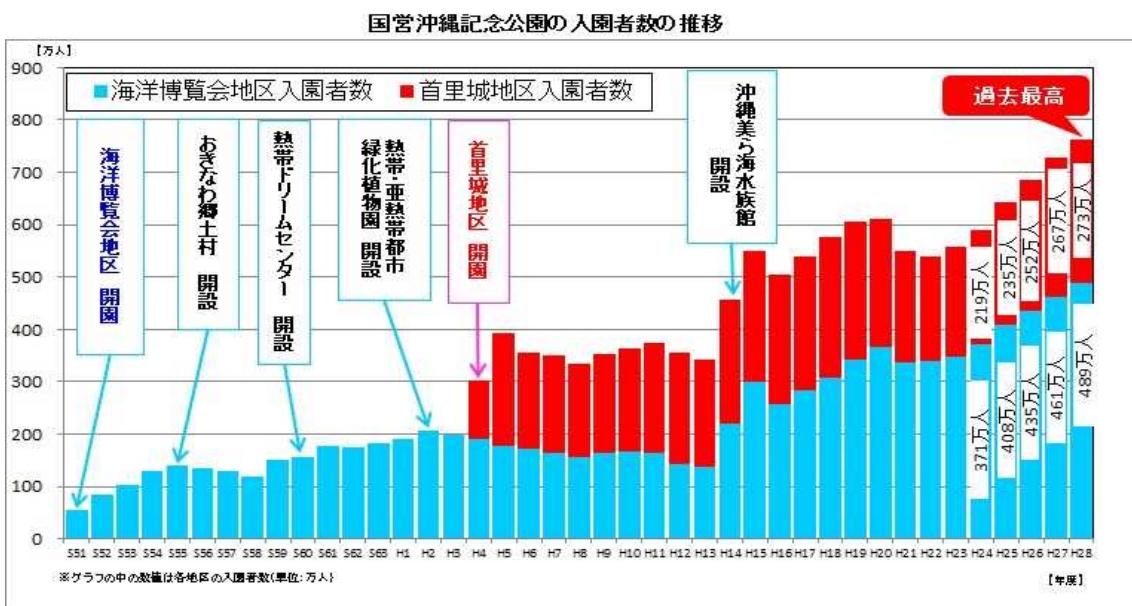


平良港クルーズ岸壁完成予想パース

起工式での鋤入れ式

★国営沖縄記念公園入園者数が4年連続で過去最高更新！

平成28年度の入園者数は762万人となり、平成25年度から4年連続で過去最高を更新しました。



海洋博覧会地区は489万人（前年度比6.1%増）、首里城地区も273万人（前年度比2.1%増）と両地区ともに増加しました。

なお、首里城地区については、平成4年11月3日の開園から今年で25周年を迎えました。



海洋博覧会地区（中央ゲート）



首里城地区（古式行列）

★沖縄黒糖の生産者団体と香港バイヤーによる覚書締結

沖縄総合事務局では、県産農林水産物・食品の輸出促進に向け、沖縄県をはじめとした関係機関・団体等と連携・協力の上、各種施策に取り組んでいるところです。

このような中、11月24日に沖縄の離島8島で生産される黒糖について、生産者団体である「沖縄県黒砂糖協同組合」と香港を拠点に東南アジアで砂糖類を販売する「太古糖業有限公司（Taikoo Suger）」間で、「沖縄黒糖のプロモーションに関する覚書」の締結式が行われました。

これにより今後、アジア地域において沖縄黒糖の認知度が向上すると共に、沖縄黒糖をはじめとした県産農林水産物・食品の輸出の増加が大いに期待されます。



覚書署名の様子



締結式出席者

★国営かんがい排水事業伊江地区の完工式の開催

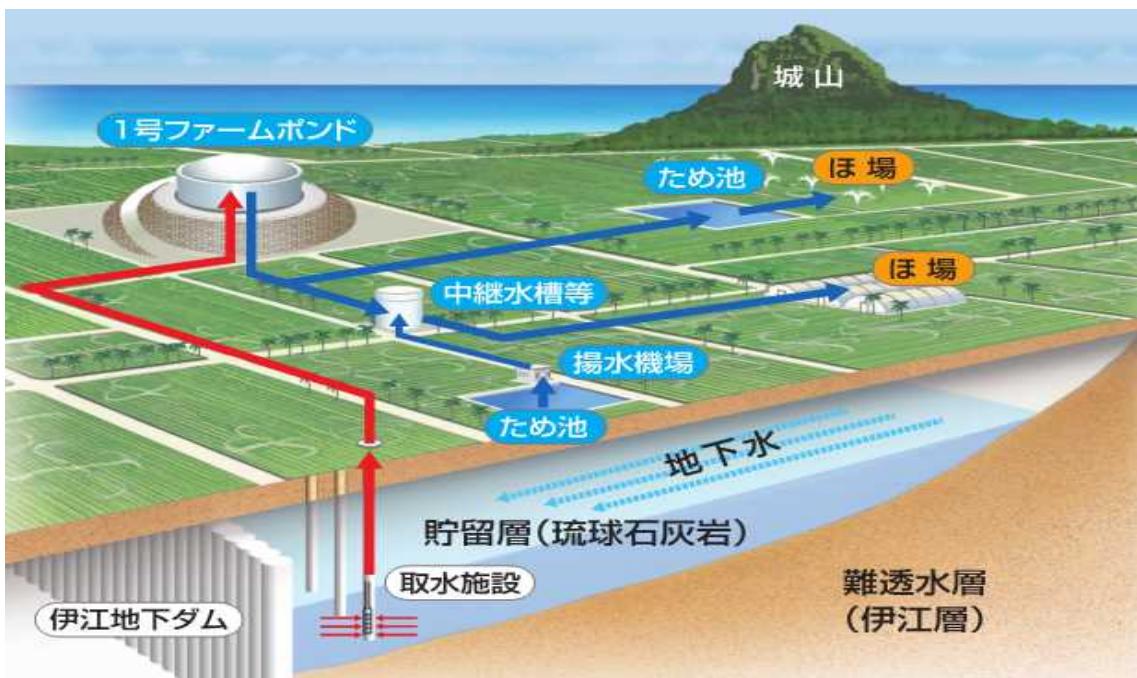
国営かんがい排水事業伊江地区は、伊江村の 668 ha の畑作地帯に安定的なかんがい用水を供給し、農業の生産性の向上、近代化及び経営の安定を目的として、平成 16 年度に事業着手しました。

その後、14 年の歳月と、約 270 億円の事業費を投入し、地下ダムをはじめ、揚水機、用水路及び関連事業による末端用水路等を整備し、平成 29 年 12 月 1 日に完工式を迎えました。

今後は、地下ダムと既設ため池による安定した用水供給により、高収益作物等の生産拡大、新規作物の導入や単収の増加が図られるとともに、従来のため池からほ場までの用水の運搬等の労力の軽減や、営農経費の節減が期待されます。



伊江地区完工式の様子



伊江地下ダムの構造図